

# DENON

## ホームシアターシステム

# DHT-S412

### 取扱説明書

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになったら後は、いつでも見られるところに「保証書」・「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」と共に大切に保管してください。
- この製品は持ち込み修理対象製品です。  
出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただくこととなりますので、あらかじめご了承ください。  
詳しくは、保証書の裏面をご覧ください。

Installation  
Connection

設置 / 接続編



Operation  
Setting

操作 / 設定編



Information

情報編



「各部の名前」(P.22 ページ)

# ご使用になる前に


## 安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

**絵表示の例**


図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。



感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。


---



分解禁止

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。

---



電源プラグをコンセントから抜く

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

### 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



#### 万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。



#### ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。必ず実施  
火災・感電の原因となります。



#### 電源コードは大切に

必ず実施  
電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。



#### 電源プラグの刃および刃の付近にはほこりや金属物が附着しているときは

必ず実施  
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



#### 火や炎を近づけない

火気禁止  
本機の上でろうそくを灯す・タバコの灰皿を使用するなどの火や炎の発生しているものを置かないでください。火災の原因となります。



#### 内部に水などの液体や異物を入れない

禁止  
機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお客様のいるご家庭ではご注意ください。



#### 水滴や水しぶきのかかるところに置かない

水ぬれ禁止  
雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。水がかかったり、濡れた状態で使用すると火災・感電の原因となります。



#### ねじを外したり、分解や改造したりしない

分解禁止  
内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。



#### 雷が鳴り出したら

接触禁止  
機器や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。



#### 使用中、使用直後に高温となる部分には触らない

接触禁止  
使用中、使用直後は上面や高温注意マークの付近には触れないでください。機器の放熱のために高温となっており、触れた場合にやけどをする恐れがあります。



高温注意



#### 電池は充電しない

禁止  
電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。



#### 風呂・シャワー室では使用しない

水場での使用禁止  
火災・感電の原因となります。



#### この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

水ぬれ禁止  
こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

# ⚠️ 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

**⚠️ 必ず実施**  
**電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない**  
 電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。  
 根元まで差し込んでゆりがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。  
 また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

**🚫 禁止**  
**電源コードを熱器具に近付けない**  
 コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

**🚫 禁止**  
**電源プラグを抜くときは**  
 電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

**🚫 ぬれ手禁止**  
**濡れた手で電源プラグを抜き差ししない**  
 感電の原因となることがあります。

**🚫 禁止**  
**すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるように設置する**  
 電源のスイッチを切ってもコンセントからは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本機をコンセントの近くに置き、すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにしてください。

**⚠️ 必ず実施**  
**機器の接続は説明書をよく読んでから接続する**  
 テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。  
 また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

**⚠️ 必ず実施**  
**電源を入れる前には音量を最小にする**  
 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

**🚫 禁止**  
**長時間音が歪んだ状態で使用しない**  
 スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

**⚠️ 必ず実施**  
**電池を交換するときは**  
 ● 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる  
 ● 指定以外の電池は使用しない  
 ● 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない  
 間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

**🚫 禁止**  
**この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない**  
 特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

**🚫 禁止**  
**コイン電池やねじ類は、乳幼児の手の届くところに置かない**  
 誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

**🚫 禁止**  
**ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない**  
 耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

**🚫 禁止**  
**不安定な場所に置かない**  
 ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

**🚫 禁止**  
**次のような場所には置かない**  
 火災・感電の原因となることがあります。  
 ● 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ  
 ● 湿気やほこりの多いところ  
 ● 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になる場所

**⚠️ 必ず実施**  
**壁や他の機器から少し離して設置する**  
 放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

**🚫 禁止**  
**この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない**  
 特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

**🚫 禁止**  
**通風孔をふさがない**  
 内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。  
 ● あお向けや横倒し、逆さまにする  
 ● 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む  
 ● テープクロスをかけたリ、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

**🚫 禁止**  
**重いものをのせない**  
 機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。パランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

**🔄**  
**移動させるときは**  
 まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

**🔄**  
**長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは**  
 安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

**⚠️ 注意**  
**5年に一度は内部の掃除を**  
 販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。  
 特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

## 目次

ご使用になる前に	2
安全上のご注意	2
目次	4
本書について	4
使用上のご注意	4
システム構成について	4
付属品を確認する	5
本機の特長	5

## 設置/接続編

フロントスピーカーを設置・接続する	8
サブウーハーを設置・接続する	10
サブウーハーとテレビを接続する	11
さまざまな機器を接続する	13

## 操作/設定編

電源を入れる	16
テレビの音声やディスクを再生する	17
再生中にいろいろな操作をする	18
HDMI コントロール機能を設定する	20

## 情報編


各部の名前	22
フロントスピーカー	22
サブウーハー	22
リモコン	23
その他の情報	24
登録商標について	24
用語の解説	24
故障かな？と思ったら	26
お買い上げ時の設定に戻す(設定の初期化)	27
保障と修理について	28
主な仕様	29


## 本書について

### □操作説明のボタンについて

本書の操作説明は、リモコンの操作ボタンをメインに説明しています。

### □マークについて

 このマークは、関連情報を記載している参照先のページをあらわします。

 このマークは、補足説明や操作上のアドバイスをあらわします。

**ご注意** このマークは、操作時に留意していただきたい注意点や、機能の制約などをあらわします。

### □イラストについて

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

## 使用上のご注意

### 携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をお使いになると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

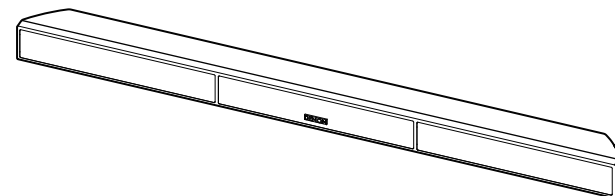
### お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをお使いの際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

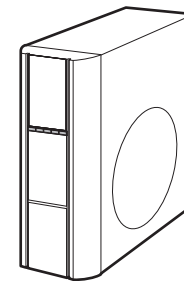
## システム構成について

本機は次のユニットで構成されています。

### □フロントスピーカー(SC-S412)



### □サブウーハー(DSW-S412)



### ステレオ音のエチケット

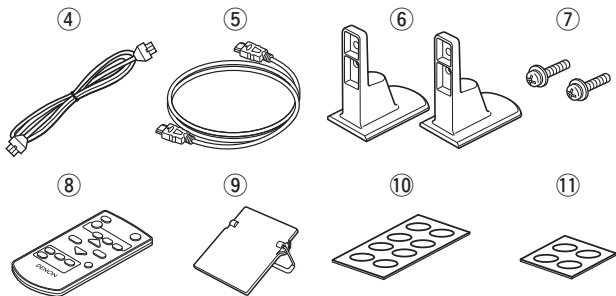


- 隣近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

## 付属品を確認する

ご使用前にご確認ください。

- |                                |   |
|--------------------------------|---|
| ① 取扱説明書(本書).....               | 1 |
| ② 保証書(梱包箱に貼り付けています).....       | 1 |
| ③ 製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内.....    | 1 |
| ④ スピーカーケーブル(長さ:約3m).....       | 1 |
| ⑤ HDMIケーブル(長さ:約1.5m).....      | 1 |
| ⑥ フロントスピーカー用フット.....           | 2 |
| ⑦ フット取り付け用ねじ.....              | 2 |
| ⑧ リモコン(RC-1155)(電池入り).....     | 1 |
| ⑨ IRリフレクター.....                | 1 |
| ⑩ フロントスピーカー用すべり止め(1シート8枚)..... | 1 |
| ⑪ サブウーハー用すべり止め(1シート4枚).....    | 1 |



## 本機の特長

テレビの前に設置できるスリムなスピーカーとコンパクトなサブウーハーで迫力あるホームシアターを実現  
テレビラック上のテレビの前に設置可能なスリムなスピーカーを採用。

サラウンド回路内蔵の独立したサブウーハーは、主要なテレビラックの高さに合わせたサイズで設計し、インテリアに合わせた設置が容易です。

また、フロントスピーカーとサブウーハーとは付属のスピーカーケーブル1本をワンタッチでつなぐだけです。とても簡単に迫力あるホームシアターをお楽しみいただけます。

音の大きさをリアルタイムに調節する Audyssey Dynamic Volume<sup>®</sup> を搭載(18 ページ)

テレビ番組の再生中にコマーシャルの音が急に大きく再生される場合などに、音のダイナミック感や明瞭感を損なうことなく適切な音量コントロールを自動的におこないます。

光沢ブラックフェイスデザイン

スリムスピーカーの前面には薄型テレビとマッチする光沢ブラックフェイスデザインを採用しました。

HDMI 接続によって実現する便利な HDMI 機能を多数搭載

□ 3D 映像信号の入出力に対応(12 ページ)

本機はブルーレイディスクプレーヤーから入力する 3D 映像信号を、3D 対応テレビに出力することができます。

□ 本機でテレビの音声を再生する ARC (Audio return channel) 機能(11 ページ)

テレビの音声を、本機とテレビ(\*2)を接続している HDMI ケーブルを使って本機に入力し、本機で再生します。  
\*2 テレビも ARC 機能に対応している必要があります。

□ 再生中の番組に最適なサラウンドモードを自動的に設定するジャンルオートサラウンド 機能(19 ページ)

本機と HDMI 接続しているテレビ(\*4)で受信している番組の EPG(電子番組表)の情報を読み取り、その番組のジャンル(「映画」、「音楽」、「ニュース」など)に最適なサラウンドモードに自動的に切り替えてサラウンド再生をします。

\*4 テレビも放送番組に応じてサラウンドモードを自動的に切り替える機能に対応している必要があります。

テレビの対応メーカー: 東芝、日立(2011年10月現在)

□ テレビやレコーダーとの連動操作ができる HDMI コントロール機能(CEC)(20 ページ)

テレビ(\*3)のリモコンから本機の電源のオフ、入力ソースの切り替え、音量の調節などがおこなえます。

\*3 テレビも HDMI コントロール機能に対応している必要があります。





テレビの対応メーカー: シャープ、パナソニック、東芝、日立、三菱、ソニー(2011年10月現在)

接続する機器や設定によっては動作しない場合があります。



## 設置/接続編

ここでは、設置から接続までの手順を説明しています。

- 操作と設定のしかたは、次のページをご覧ください。
  - 電源を入れる  16 ページ
  - テレビの音声やディスクを再生する  17 ページ
  - 再生中にいろいろな操作をする  18 ページ
  - HDMI コントロール機能を設定する  20 ページ

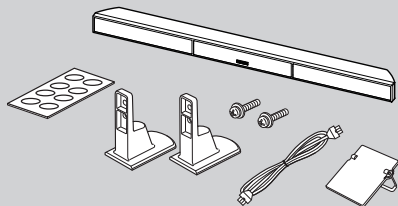
フロントスピーカーとサブウーハーを開梱したあと、準備⇒設置⇒接続の方法を説明します。

- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
- 接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。

1

## フロント スピーカーを 設置・接続 する

(👉 8 ページ)



フロントスピーカーはテレビの前の水平な場所に設置します。壁に取り付けることもできます。

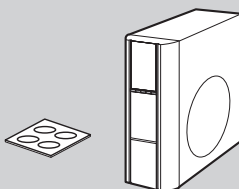
2

## サブウーハーを設置・接続する

2-1

### サブウーハーを 設置・接続する

(👉 10 ページ)

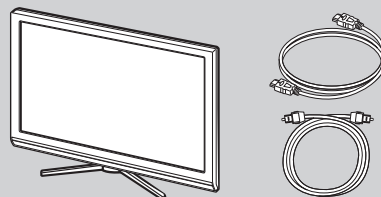


サブウーハーにすべり止めを貼り付け、テレビラックなどの右側の床面に設置します。

2-2

### テレビを接続 する

(👉 11 ページ)

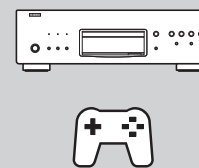


テレビとサブウーハーを HDMI ケーブル(付属)で接続します。テレビが ARC 機能に対応しているかどうかによって、接続方法は異なります。

2-3

### さまざまな機器 を接続する

(👉 13 ページ)



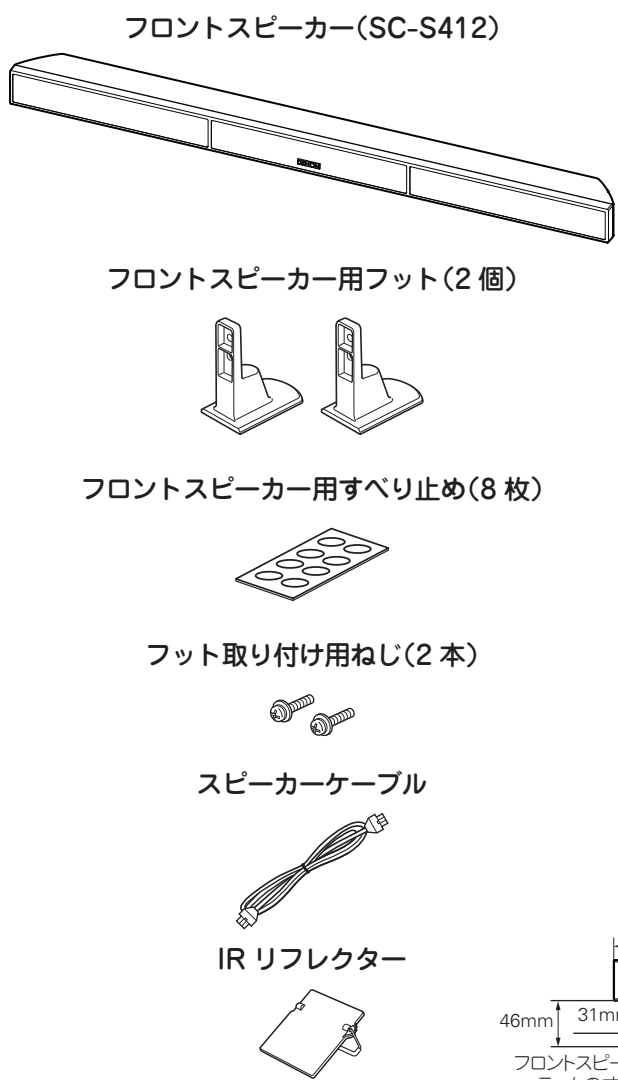
テレビを経由してその他の機器を接続できます。テレビの入力を切り替えるだけで、さまざまな機器をサウンドで楽しめます。

# 1 フロントスピーカーを設置・接続する

フロントスピーカーはテレビの前の水平な場所に設置します。壁に取り付けることもできます。接続には、付属のスピーカーケーブルをお使いください。

## この手順で必要なもの

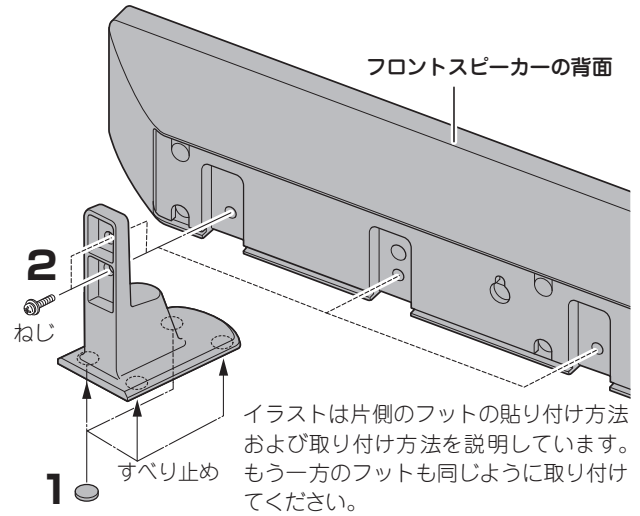
## 設置



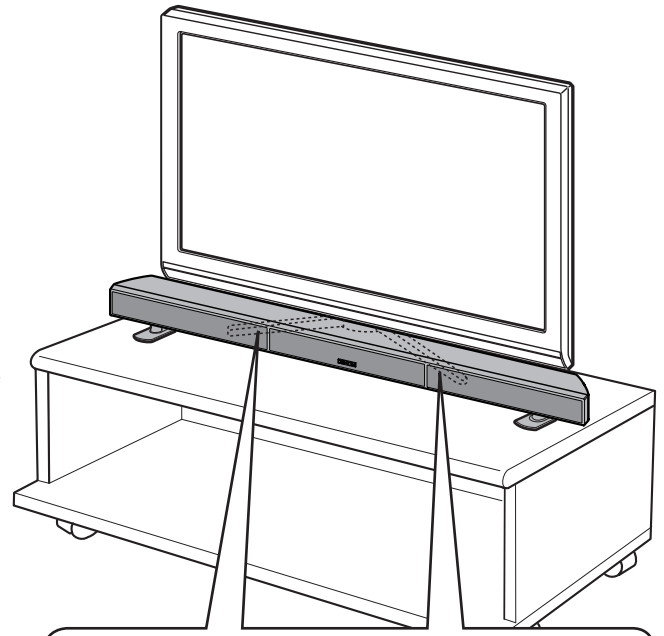
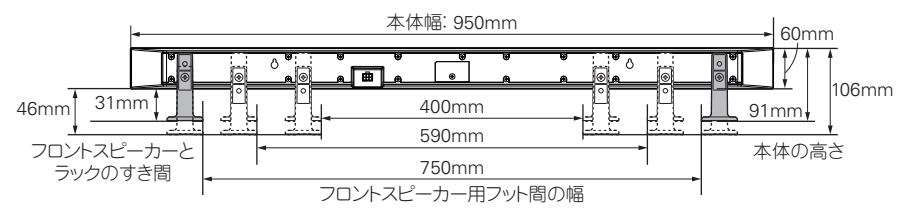
### フロントスピーカーをテレビの前に設置する

#### 【設置の前の準備】

1. フロントスピーカー用フットにすべり止め(片側4箇所)を貼り付ける。
  2. フロントスピーカー用フットをフロントスピーカーに取り付ける。
- 接続するテレビの脚と重ならない位置にねじ(1本)で固定します。  
 ・ねじを固定する穴が6箇所ありますので、お好みの高さや幅で固定してください。



フロントスピーカー用フットの取り付け寸法図



#### 設置のポイント

- フットで持ち上げられたフロントスピーカーの下のスペースに、テレビの脚が入るように設置してください。
- テレビの左右の中心にフロントスピーカーの中心を合わせて設置してください。

#### ご注意

- 設置する際、本機でテレビのリモコン受光部を隠さないようにしてください(16ページ「IRリフレクター(付属)の設置について」)。
- ブラウン管テレビまたは、ブラウン管モニター前に設置したとき、色むらが生じた場合はできるだけ本機を離してご使用ください。
- 本機をテレビに近づけすぎると3Dシンクロ信号や人感センサーが誤動作することがあります。そのような場合はできるだけ本機をテレビから離してご使用ください。

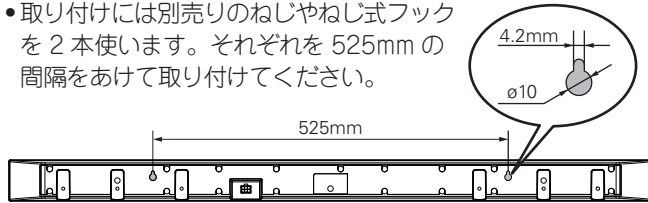


## フロントスピーカーを設置・接続する

### フロントスピーカーを壁に取り付ける場合

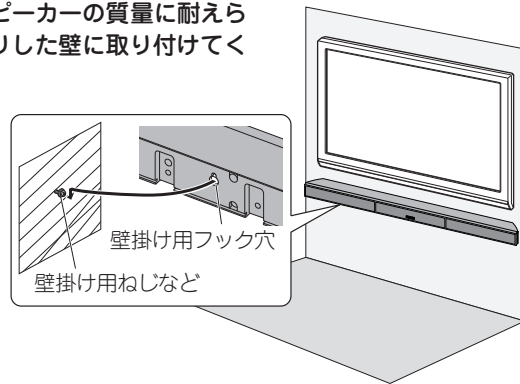
あらかじめ壁に取り付けた壁掛け用ねじなどに、フロントスピーカーの背面にある壁掛け用フック穴を掛けると本機を壁に取り付けることができます。

- 取り付けには別売りのねじやねじ式フックを2本使います。それぞれを525mmの間隔をあけて取り付けてください。



#### ご注意

ねじは、スピーカーの質量に耐えられるしっかりした壁に取り付けてください。



#### 警告

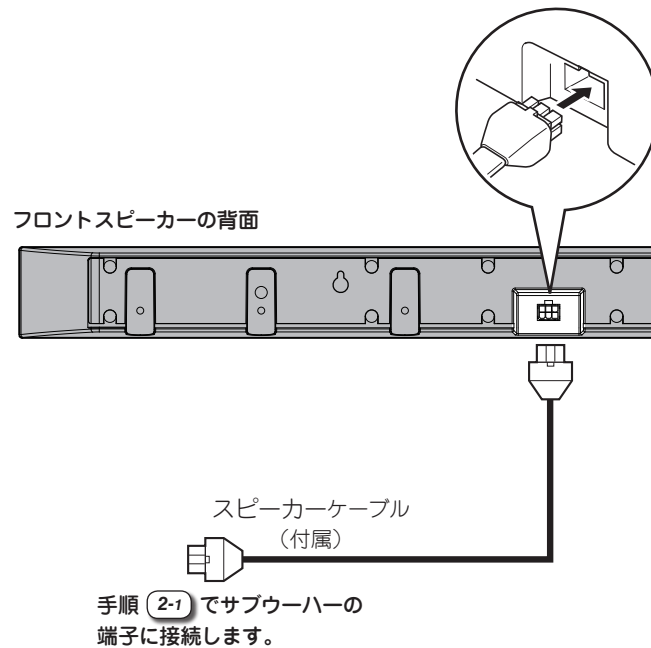
- 壁への取り付けは安全性確保のため、専門施工業者へ依頼してください。
- 安全にお使いいただくために、本体の上に物をのせたり、寄り掛かったりしないでください。
- 接続ケーブルを足や手に引っ掛けて本機を落下させることのないように、必ず壁などに固定してください。
- 取り付け後は必ず安全性を確認してください。また、その後、定期的に落下の可能性がないか安全点検をおこなってください。
- 取り付け場所、取り付け方法の不備による損害、事故について、当社は一切その責任を負いません。

### 接続

### フロントスピーカーにスピーカーケーブルを接続する

#### ご注意

スピーカーケーブルは本機の端子の形状に合わせて、奥までしっかりと差し込んでください。

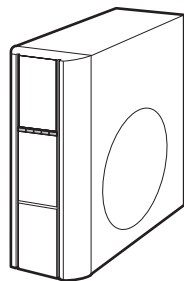


## 2-1 サブウーハーを設置・接続する

テレビラックの横の床面に設置します。接続には、付属のスピーカーケーブルをお使いください。

### この手順で必要なもの

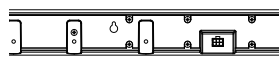
サブウーハー(DSW-S412)



サブウーハー用すべり止め(4枚)



スピーカーケーブル



手順①で一方の端子をフロントスピーカーに接続しています。

付属の HDMI ケーブル



「HDMI ケーブルについて」(P.12 ページ)をご覧ください。

別売りの光伝送ケーブル

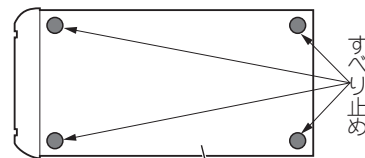


### 設置

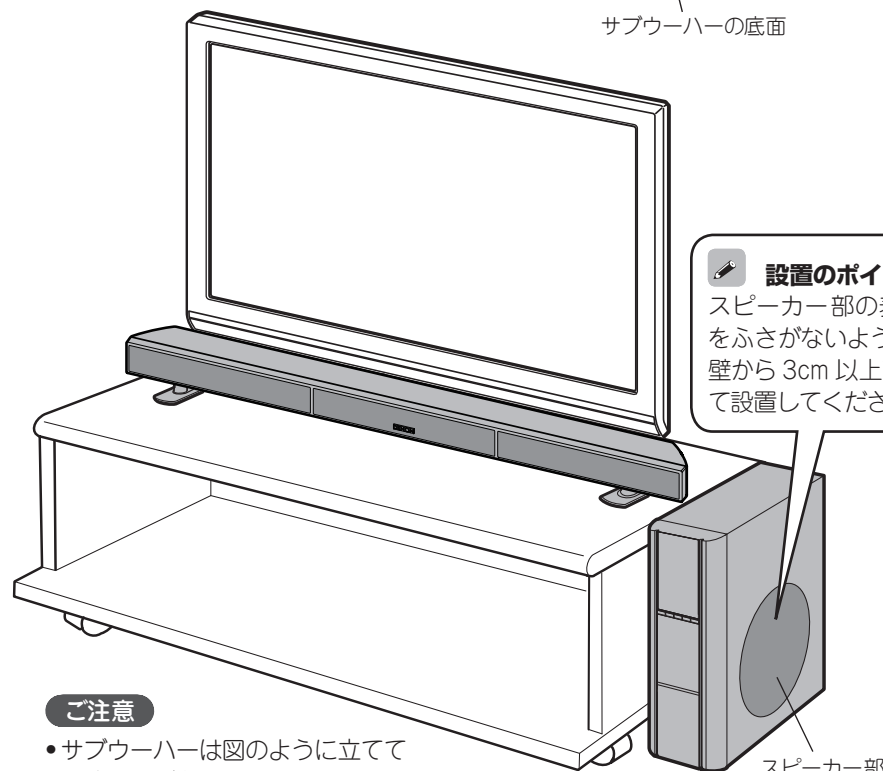
サブウーハーをテレビラックの右側に設置する

【設置の前の準備】

サブウーハー用すべり止めを4箇所に貼り付ける。



サブウーハーの底面



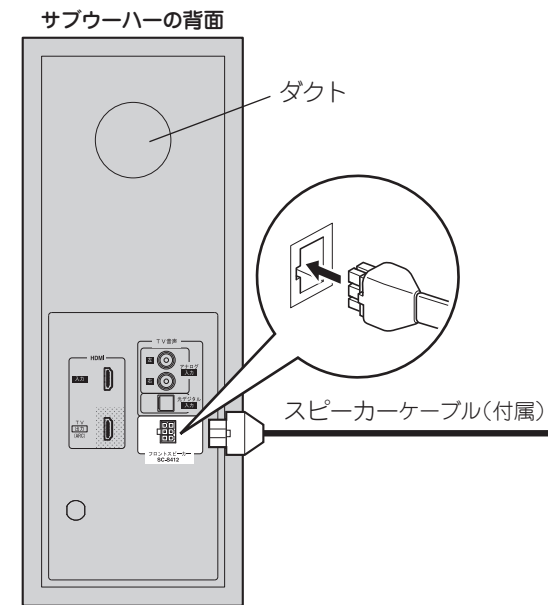
**設置のポイント**  
スピーカー部の表面をふさがないように、壁から3cm以上離して設置してください。

### ご注意

- サブウーハーは図のように立ててお使いください。
- テレビラックの左側に設置する場合はスピーカー部をふさがないように、ラックとサブウーハーを3cm以上離して設置してください。

### 接続

手順①でフロントスピーカーに差し込んだスピーカーケーブルをサブウーハーに接続する



### ご注意

- スピーカーケーブルは本機の端子の形状に合わせて、奥までしっかりと差し込んでください。
- ダクトをふさがないように設置してください。

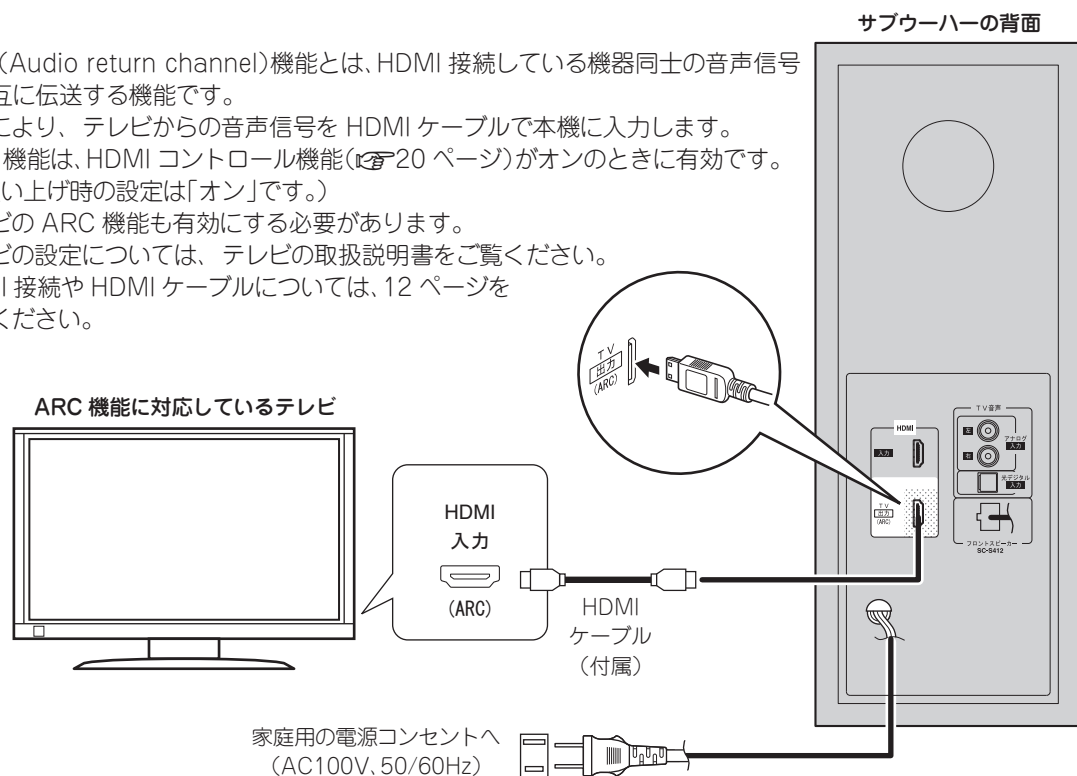
## 2-2 サブウーハーとテレビを接続する

テレビの接続には HDMI ケーブル(付属)をお使いください。お使いのテレビが ARC 機能に対応しているかどうかによって、接続方法は異なります。

### テレビが ARC 機能に対応している場合

テレビの ARC 機能対応 HDMI 入力端子と本機を接続してください。この場合は、テレビの音声は HDMI ケーブルで本機に入力されますので、音声ケーブルを接続しなくても本機でテレビの音声を再生することができます。

- ARC(Audio return channel)機能とは、HDMI 接続している機器同士の音声信号を相互に伝送する機能です。これにより、テレビからの音声信号を HDMI ケーブルで本機に入力します。
- ARC 機能は、HDMI コントロール機能(19 ページ)がオンのときに有効です。(お買い上げ時の設定は「オン」です。)
- テレビの ARC 機能も有効にする必要があります。テレビの設定については、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- HDMI 接続や HDMI ケーブルについては、12 ページをご覧ください。

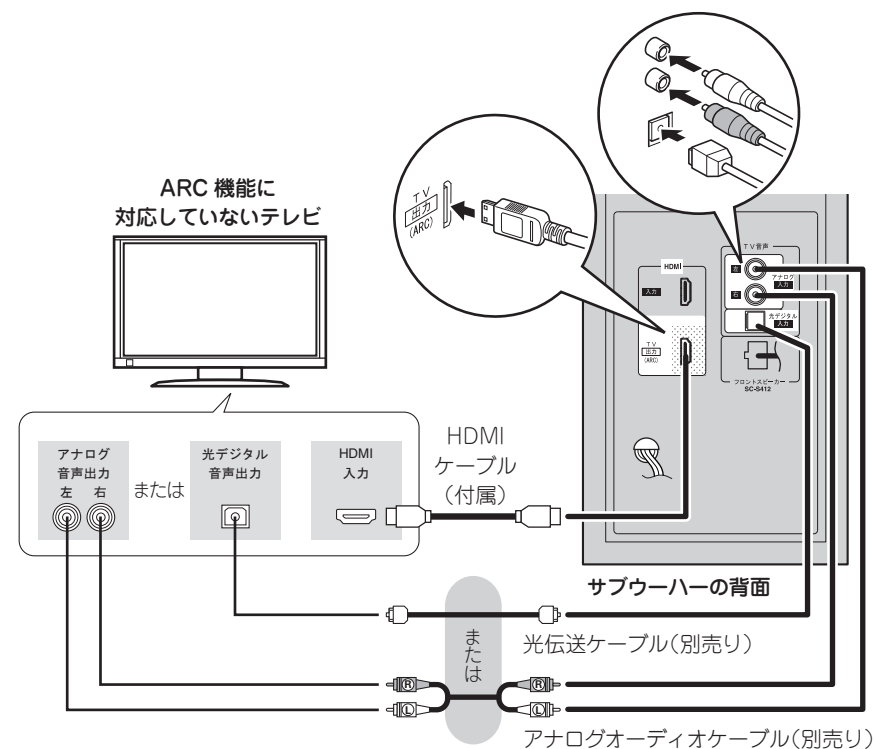


#### ご注意

- すべての接続が終わってから、電源コードを接続してください。
- 本機が動作しているときは、電源プラグをコンセントから抜かないでください。
- 電源プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な差し込みは、雑音の原因になります。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因となります。

### テレビが ARC 機能に対応していない場合

本機を ARC 機能に対応していないテレビに接続する場合は、本機に光伝送ケーブル(またはアナログオーディオケーブル) (別売り)で音声接続をおこなうことにより、本機でテレビの音声を再生することができます。HDMI ケーブルの接続のみでは、本機でテレビの音声を再生できません。



#### ご注意

光伝送ケーブル(別売り)は本機のデジタル音声端子の形状に合わせて、奥までしっかりと差し込んでください。

## □HDMI 接続について

本機とテレビ、および本機とプレーヤーやレコーダーなどの映像機器を HDMI ケーブルで接続すると、高解像度のデジタル映像信号やブルーレイディスクの音声信号を伝送し、高品質な映像と音声の再生をお楽しみいただけます。

また、HDMI ケーブルで接続することで次のさまざまな機能もお楽しみいただくことができます。

### ARC(Audio return channel)機能 (P.11 ページ)

テレビの音声を、本機とテレビ(\*1)を接続している HDMI ケーブルを使って本機に入力し、本機で再生します。

\*1 テレビも ARC 機能に対応していることが必要です。

### ジャンルオートサラウンドモード機能 (P.19 ページ)

本機と HDMI 接続しているテレビ(\*2)で受信している番組の EPG(電子番組表)の情報を読み取り、その番組のジャンル(「映画」、「音楽」、「ニュース」など)に最適なサラウンドモードに自動的に切り替えてサラウンド再生をします。

\*2 テレビも放送番組に応じてサラウンドモードを自動的に切り替える機能に対応していることが必要です。

テレビの対応メーカー: 東芝、日立 (2011年10月現在)

### HDMI コントロール機能 (P.20 ページ)

テレビ(\*3)のリモコンから本機の電源のオフ、入力ソースの切り替え、音量の調節などがおこなえます。

\*3 テレビも HDMI コントロール機能に対応していることが必要です。

テレビの対応メーカー: シャープ、パナソニック、東芝、日立、三菱、ソニー (2011年10月現在)  
接続する機器や設定によっては動作しない場合があります。

### 3D 機能

本機は 3D(3次元)映像信号の入力/出力に対応しています。3D 映像の再生には本機のほかに、3D 機能に対応しているプレーヤーとテレビが必要です。

### その他の HDMI 機能 (P.24 ページ)

Deep Color、Adobe RGB color、Adobe YCC601 color、“x.v.Color”、sYCC601 color

## □HDMI ケーブルについて

### (3D、ARC 機能対応のケーブル)

- HDMI(High-Definition Multimedia Interface)ケーブルは付属品をお使いください。
- 別売りの HDMI ケーブルをお使いになる場合は、次のケーブルをお使いください。
  - HDMI ロゴが付いたケーブル(HDMI 認証品)。HDMI ロゴのないケーブル(HDMI 非認証品)を使用した場合、正しい再生ができないことがあります。
  - Deep Color または 1080p などの信号を伝送する場合は、高音質再生のために“イーサネット対応標準 HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”をお使いください。
  - ARC 機能を使用するときは、“イーサネット対応標準 HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”をお使いください。

## □著作権保護システム(HDCP)について

HDMI 接続を通して BD ビデオや DVD ビデオなどのデジタル映像と音声を再生するためには、AV アンプとテレビ、AV アンプとプレーヤーなどの双方が HDCP(High-bandwidth Digital Content Protection System)と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。本機は、HDCP に対応しています。

•HDCP に対応していない機器を接続した場合は、映像と音声を正しく出力しません。お手持ちのテレビやプレーヤーなどについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

## 2-3 さまざまな機器を接続する

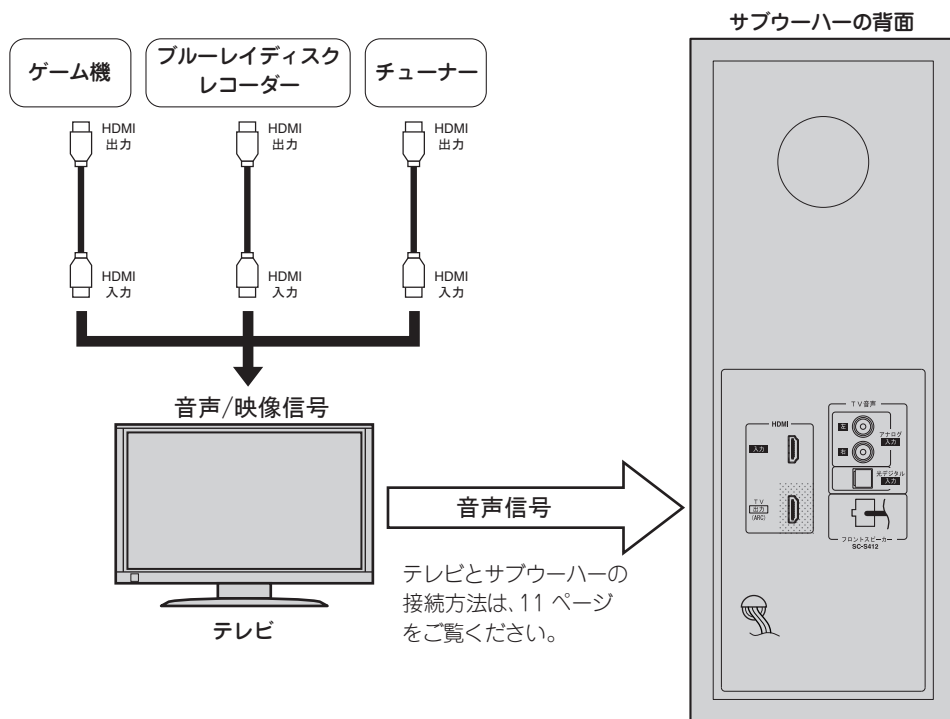
### さまざまな機器をテレビに接続する場合

テレビに接続しているさまざまな機器の音声を、本機で再生することができます。

この場合、再生する機器の切り替えは、テレビの入力切り替えでおこないます。(本機の入力切り替えは“H1(TV)”にします。)

テレビの HDMI 入力端子に接続している機器の音声を、テレビを経由して本機に入力します。

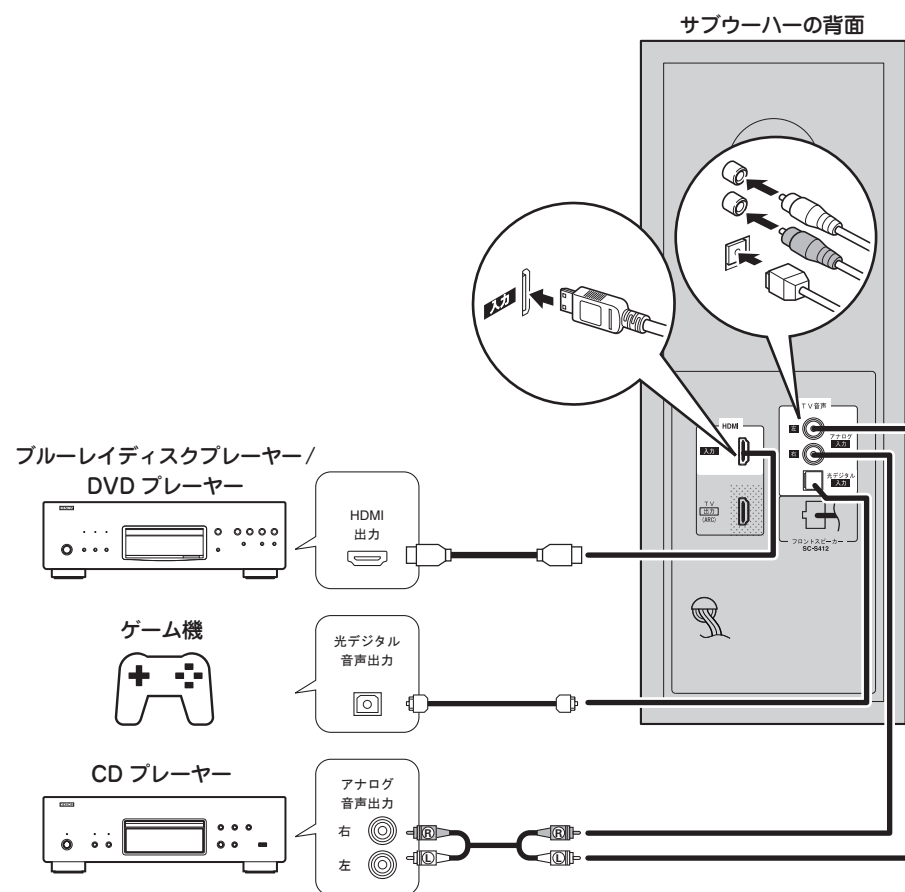
•テレビとサブウーハーの接続方法は、11 ページをご覧ください。



### さまざまな機器を本機に接続する場合

直接サブウーハーに機器(ブルーレイディスクレコーダーやゲーム機など)を接続し、再生することもできます。






それぞれの機器に合わせたケーブルを用意し、HDMI 入力端子、光デジタル入力端子またはアナログ入力端子に接続します。





## 操作/設定編

ここでは、本機の操作方法や設定について説明しています。

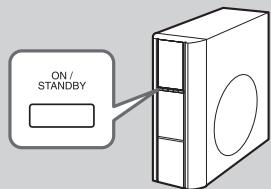
- 設置と接続のしかたは、次のページをご覧ください。
  - フロントスピーカーを設置・接続する  8 ページ
  - サブウーハーを設置・接続する  10 ページ
    - サブウーハーを設置・接続する  10 ページ
    - サブウーハーとテレビを接続する  11 ページ
    - さまざまな機器を接続する  13 ページ

ここでは、本機の操作方法や設定について説明します。

1

## 電源を入れる

(☞ 16 ページ)



2

## テレビの音声 やディスクを 再生する

(☞ 17 ページ)

テレビの音声やブルーレイディスク  
または DVD をサラウンドで楽し  
めます。

3

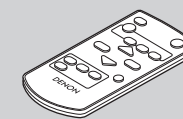
## 再生中に いろいろな 操作をする

(☞ 18 ページ)

4

## HDMI コントロール 機能を設定する

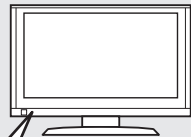
(☞ 20 ページ)



テレビの操作に連動して、  
さまざまな便利な操作ができます。

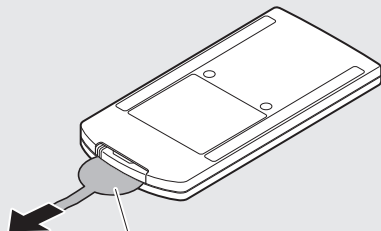
# 1 電源を入れる

## 1 テレビの電源を入れる。



電源を入れる

## 2 リモコンの絶縁シートを引き抜く。



絶縁シート

## 3 電源 を押して、サブウーハーの電源を入れる。

電源表示が緑色に点灯して、電源が入ります。

電源 を押す

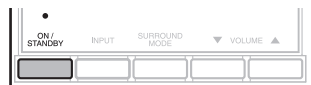


### 【サブウーハーの電源表示】

- 緑色：電源オン時
- 赤色：スタンバイ時  
(HDMI コントロール機能オン)  
(お買い上げ時の設定です。)
- 消灯：スタンバイ時  
(HDMI コントロール機能オフ)



サブウーハーの **ON/STANDBY** を押しても、サブウーハーの電源が入りません。

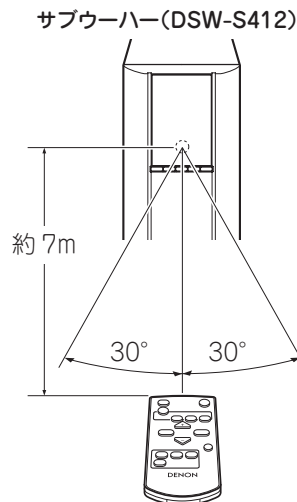


### ご注意

電源がスタンバイ状態のときは、微量な電力を消費します。すべての電力を完全に遮断するときは、電源コードをコンセントから抜いてください。

## リモコンの使いかた

リモコンはサブウーハーのリモコン受光部に向けてご使用ください。



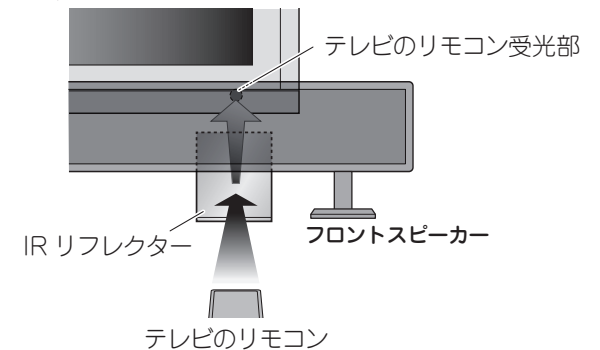
### ご注意

- リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線が当たると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。
- 3D 映像機器を構成している各ユニット (モニター、3D 視聴用メガネ、3D 信号伝送ユニットなど) 間の信号の伝送を無線通信 (赤外線通信など) でおこなっている 3D 映像機器をお使いの場合、その無線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。そのときは 3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。
- テレビの明るさセンサー動作時には、リモコンの効きが悪くなる場合があります。

## IR リフレクター(付属)の設置について

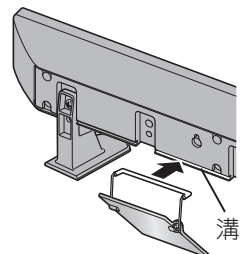
フロントスピーカーを設置したときに、フロントスピーカーがテレビのリモコン受光部を覆ってしまい、テレビのリモコンが効きづらくなってしまう場合は、付属の IR リフレクターを使用してください。

IR リフレクターを設置すると、リモコンの信号が反射してテレビのリモコン受光部に届くようになり、リモコンの受信状況が改善できる場合があります。



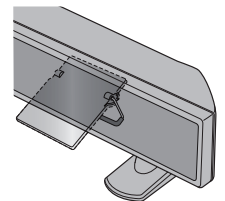
## フロントスピーカーの背面に取り付ける場合

フロントスピーカー背面の溝に IR リフレクターのゴム部分を差し込みます。テレビのリモコン受光部に合わせて、位置と角度を調整します。



## フロントスピーカーの下に直接置く場合

フロントスピーカーの下へ置きます。テレビのリモコン受光部に合わせて、位置と角度を調整します。



## 2 テレビの音声やディスクを再生する



### テレビの音声再生

**1 TV (H1) を押す。**  
本機の入力ソースが“H1” (TV) に切り替わります。

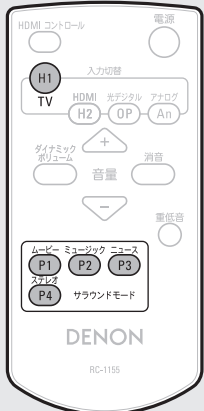
**2 テレビで視聴する番組や機器を選ぶ。**

- テレビの操作のしかたは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

**3 サラウンドモード (ムービー (P1)、ミュージック (P2)、ニュース (P3)、ステレオ (P4)) を押して、サラウンドモードを選ぶ。**

ディスプレイに選んだサラウンドモードを約 5 秒間表示します。

- **ムービー (P1)** を押すたびに、サラウンドモードが“ムービー”と“ムービーワイド”に切り替わります。
- 再生するコンテンツ(映画や音楽など)やお好みに合わせて、サラウンドモードを選んでください (P.19 ページ「サラウンドモードを選ぶ」)。



### 本機の HDMI 入力端子に接続した機器の再生

**1 HDMI (H2) を押す。**  
本機の入力ソースが“H2” (HDMI) に切り替わります。

**2 本機と接続した機器を再生する。**

- あらかじめプレーヤーの設定(言語設定や字幕設定など)をおこなってください。
- 再生のしかたは、プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

**3 サラウンドモード (ムービー (P1)、ミュージック (P2)、ニュース (P3)、ステレオ (P4)) を押して、サラウンドモードを選ぶ。**

ディスプレイに選んだサラウンドモードを約 5 秒間表示します。

- **ムービー (P1)** を押すたびに、サラウンドモードが“ムービー”と“ムービーワイド”に切り替わります。
- 再生するコンテンツ(映画や音楽など)やお好みに合わせて、サラウンドモードを選んでください (P.19 ページ「サラウンドモードを選ぶ」)。

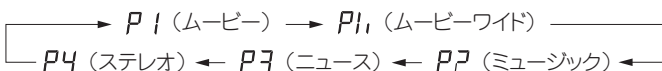


### □サラウンドモードについて

本機のジャンル	特長
ムービー (P1)	映画ソースを広がりのある音場の雰囲気を楽しめます。
ムービーワイド (P1i)	映画ソースをより広がりのある音場の雰囲気を楽しめます。
ミュージック (P2)	ミュージックライブソースの再生に適したモードで、音楽を広がりのある包みこむような音場で楽しめます。
ニュース (P3)	テレビのニュース番組やドラマなどの台詞を聞きやすくします。
ステレオ (P4)	2チャンネル音楽ソースの再生に適したモードで、2チャンネルステレオシステムのように正面から再生される音場の雰囲気を楽しめます。



本体の **SURROUND MODE** を押しても、サラウンドモードを選べます。ボタンを押すたびに、次の順序でサラウンドモードが切り替わります。

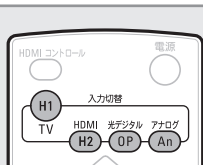


# 3 再生中にいろいろな操作をする



## □入力ソースを選ぶ

入力切替 (TV (H1)、HDMI (H2)、光デジタル (OP)、アナログ (An)) を押す。本機の入力ソースがダイレクトに切り替わります。



### 【ディスプレイ表示】

- H1：テレビを選択時
- H2：HDMI入力端子に接続した機器を選択時
- OP：光デジタル入力端子に接続した機器を選択時
- An：アナログ入力端子に接続した機器を選択時



本体の **INPUT** を押しても、入力ソースを選べます。ボタンを押すたびに、次の順序で入力ソースが切り替わります。



## □音量を調節する

音量 + - を押す。

- 音量は「0」～「34」の範囲で調節できます。
- 音量 + ..... 音量を上げる
- 音量 - ..... 音量を下げる
- お買い上げ時の音量レベルは「12」です。



本体の **VOLUME ▲ ▼** を押しても、音量を調節できます。



## □一時的に音を消す(ミュートイング)

消音 を押す。

ディスプレイに現在の音量レベルを点滅表示します。

- ミュートングを解除するときは、もう一度 **消音** を押してください。音量を調節しても解除できます。



## □重低音を強調する

重低音 を押す。

ディスプレイに現在の設定を約5秒間表示します。

【ディスプレイ表示】

- on：重低音オン時
- of：重低音オフ時

- 現在の設定を表示中にもう一度 **重低音** を押すと、オンとオフが切り替わります。
- お買い上げ時の設定は「オフ」です。



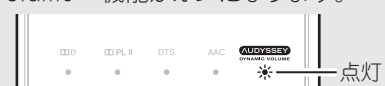
## □音量の変化を自動調節する

### (Dynamic Volume® 機能)

テレビ番組や映画などの音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)を自動的に適切に調節します。

ダイナミックボリューム を押す。

AUDYSSEY 表示が点灯して、Dynamic Volume® 機能がオンになります。



- オフにするときは、もう一度 **ダイナミックボリューム** を押してください。AUDYSSEY 表示が消灯します。
- お買い上げ時の設定は「オフ」です。



## ご注意

- Dynamic Volume® 機能をオンにすると、オフの時と違う音量になるときがあります。そのときは好みの音量レベルに調節してください。
- トーク番組やニュース番組をご覧のときに Dynamic Volume 機能をオンにすると、再生音が不自然に思われることがあります。そのときはダイナミックボリュームをオフにしてください。

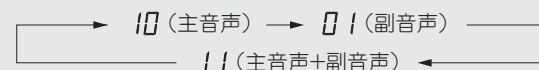
## □二重音声の設定をする

- 二重音声情報を含むデジタル入力ソースに対して、出力する音声を設定します。
- 二重音声ソースが入力されているときに設定してください。

### P3 (ニュース) を2秒以上長押しする。

ディスプレイに現在の設定を約5秒間表示します。

- 現在の設定を表示中に **P3 (ニュース)** を押すと、次の順序で設定が切り替わります。



- お買い上げ時の設定は「主音声 + 副音声」です。



この設定をおこなうとサラウンドモードが「ニュース」に切り替わります。好みのサラウンドモードに設定しなおしてください。

## ご注意

- 二重音声の設定は、二重音声情報を含む AAC ソースおよびドルビーデジタルソースに対して有効です。
- その他のソースについては、ソースの機器側で出力する音声を設定してください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。



## □ サラウンドモードを選ぶ

本機に入力される音声信号をサラウンド再生できます。再生するコンテンツ(映画や音楽など)やお好みに合わせて、サラウンドモードを選んでください。

### 1 本機と接続した機器を再生する。

- 再生のしかたは、プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

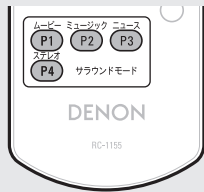
### 2 入力ソースを選ぶ(18 ページ)。

本機の入力ソースが切り替わります。

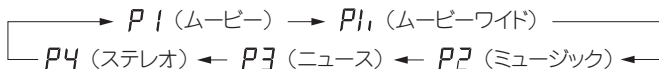
### 3 サラウンドモード(ムービー(P1)、ミュージック(P2)、ニュース(P3)、ステレオ(P4))を押して、サラウンドモードを選ぶ。

ディスプレイに選んだサラウンドモードを約5秒間表示します。

- ムービー(P1)を押すたびに、サラウンドモードが“ムービー”と“ムービーワイド”に切り替わります。



- 本体の **SURROUND MODE** を押しても、サラウンドモードを選べます。ボタンを押すたびに、次の順序でサラウンドモードが切り替わります。



- 再生するソースによっては、十分な効果を得られない場合があります。このような場合は、サラウンドモードの名称にこだわらずに各モードを試して、お好みの音場でお楽しみください。

## □ ジャンルオートサラウンド機能

本機と HDMI 接続しているテレビで受信している番組(デジタル放送)の EPG(電子番組表)の情報を読み取り、視聴しているテレビ番組のジャンルに合わせて、サラウンドモードを自動で切り替えることができます。

- テレビも放送番組に応じてサラウンドモードを自動的に切り替える機能に対応していることが必要です。テレビの対応メーカー: 東芝、日立 (2011年10月現在)
- 本機では、テレビ番組のジャンルを次の3つのサラウンドモードに割り当てています。

サラウンドモード	テレビ番組のジャンル	特長
ムービー (P1)	映画 / ドラマ	広がりのある音場の雰囲気を楽しめます。
ムービーワイド (P1i)		より広がりのある音場の雰囲気を楽しめます。
ミュージック (P2)	音楽	ミュージックライブソースの再生に適したモードで、音楽を広がりのある包みこむような音場で楽しめます。
ニュース (P3)	ニュース / 情報 / パラエティ / ジャンルなし など	テレビのニュース番組やドラマなどの台詞を聞きやすくします。



- 再生するソースによっては、十分な効果を得られない場合があります。このような場合は、サラウンドモードの名称にこだわらずに各モードを試して、お好みの音場でお楽しみください。
- テレビ音声再生中、放送がCMに切り替わった途端に音量が大きくなる場合があります。これは音声入力信号が切り替わったことによるものであり故障ではありません。お好みで Audyssey Dynamic Volume<sup>®</sup> 機能を使用することにより、音量レベルの変化を自動的に調整した音を楽しめます(18 ページ「音量の変化を自動調節する (Dynamic Volume<sup>®</sup> 機能)」)。

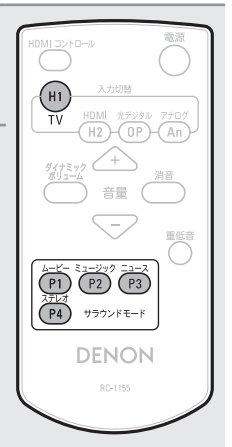
## お好みのサラウンドモードに切り替える

- 1 TV (H1) を押す。  
本機の入力ソースが“H1”(TV)に切り替わります。

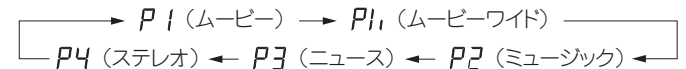
- 2 サラウンドモード(ムービー(P1)、ミュージック(P2)、ニュース(P3)、ステレオ(P4))を押して、サラウンドモードを選ぶ。

ディスプレイに選んだサラウンドモードを約5秒間表示します。

- ムービー(P1)を押すたびに、サラウンドモードが“ムービー”と“ムービーワイド”に切り替わります。



- 本体の **SURROUND MODE** を押しても、サラウンドモードを選べます。ボタンを押すたびに、次の順序でサラウンドモードが切り替わります。



### ご注意

テレビ番組を切り替えると、テレビ番組のジャンルに合わせてサラウンドモードが切り替わります。もう一度お好みのサラウンドモードに切り替える場合は手順2をおこなってください。

# 4 HDMI コントロール機能を設定する



本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御をおこなうことができます。(本機のお買い上げ時の設定は「オン(有効)」です。)

## HDMI コントロール機能でできること

- テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。
- テレビの操作で、音声を出力する機器の切り替えができます。  
テレビの音声出力の設定操作にて「アンプから音声を出力する」の設定操作をおこなうと、アンプの電源をオンにすることができます。
- テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。
- テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースの切り替えができます。
- プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。
- 本機の入力ソースをテレビにすると、テレビの音声を本機で再生します(11 ページ「テレビが ARC 機能に対応している場合」)。  
ARC 機能に対応していないテレビの音声を本機で再生する場合は、別売りの光伝送ケーブルまたはオーディオケーブルを接続してください(11 ページ「テレビが ARC 機能に対応していない場合」)。
- 視聴しているテレビ番組のジャンルごとに、サラウンドモードを自動で切り替えることができます(19 ページ「ジャンルオートサラウンド機能」)。

## 設定のしかた

- 1 HDMI コントロール を 2 秒以上長押しし、本機の HDMI コントロール機能を有効にする。  
ディスプレイに「[O]」を約 5 秒間表示します。



- 現在の設定中にもう一度 **HDMI コントロール** を押すとオンとオフが切り替わります。  
【ディスプレイ表示】  
[O] : HDMI コントロール機能オン時  
[F] : HDMI コントロール機能オフ時
- お買い上げ時の設定は「オン」です。

- 2 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。

- 3 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。

- 接続している機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- いずれかの機器の電源プラグを抜いた場合は、手順 2、3 をおこなってください。

- 4 テレビの電源を一度オフにし、再度電源を入れる。

- 5 テレビの入力を、本機を接続している HDMI 入力に切り替える。

- 6 本機の入力を HDMI 入力のソースに切り替えて、プレーヤーの映像が正しく映るか確認する。







- 7 テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。

## ご注意

- 接続する機器や設定によって、HDMI コントロール機能がはたらかない場合があります。
- HDMI コントロール機能に対応していないテレビ、ブルーレイディスクプレーヤーおよび DVD プレーヤーを接続している場合は操作できません。
- HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。
- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。
- 次の操作をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。その場合には、手順 2、3 をおこなってください。
  - 本機の HDMI コントロール機能の設定の変更
  - HDMI で接続している機器の変更や機器の追加

## 情報編

ここでは本機に関するさまざまな情報を記載しています。  
必要に応じてご覧ください。

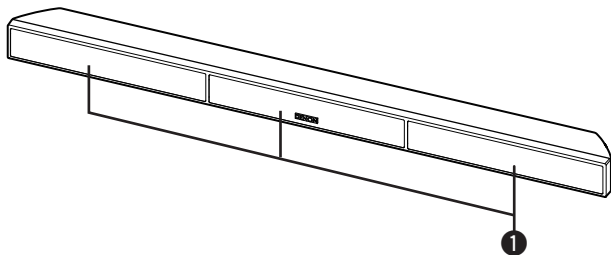
- 各部の名前  22 ページ
- その他の情報  24 ページ
- 故障かな?と思ったら  26 ページ
- 保障と修理について  28 ページ
- 主な仕様  29 ページ
- 索引  30 ページ

# 各部の名前

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。

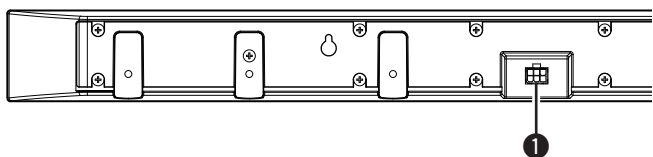
## フロントスピーカー

### フロントパネル



① スピーカー部

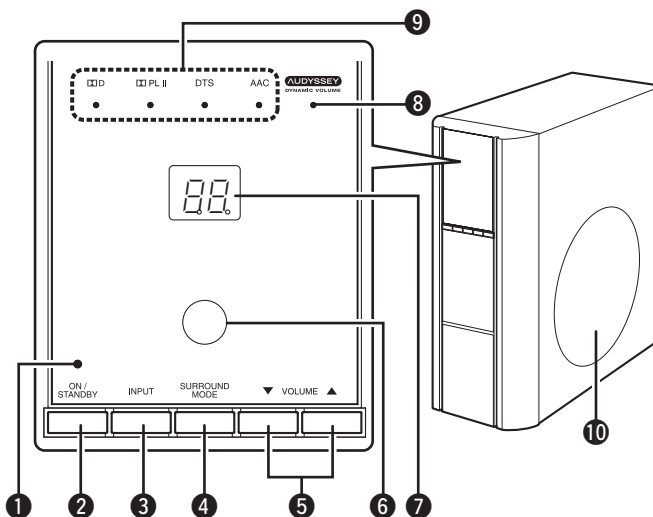
### リアパネル



① フロントスピーカー音声入力端子 (9)

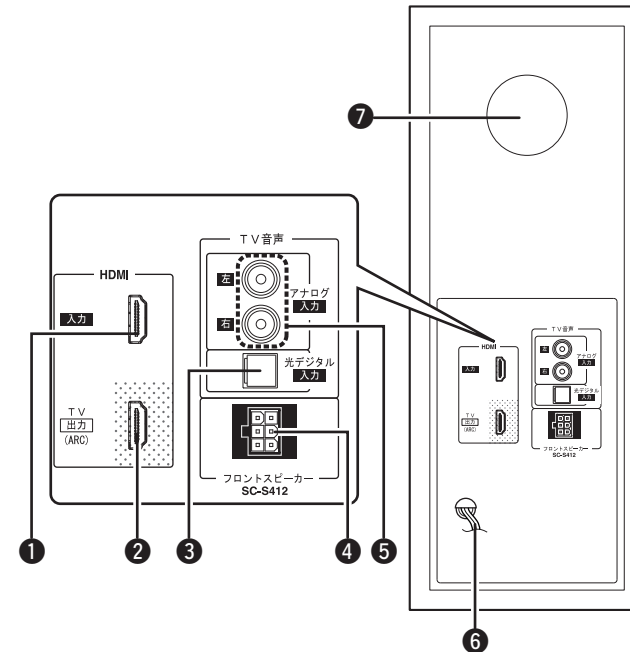
## サブウーハー

### フロントパネル

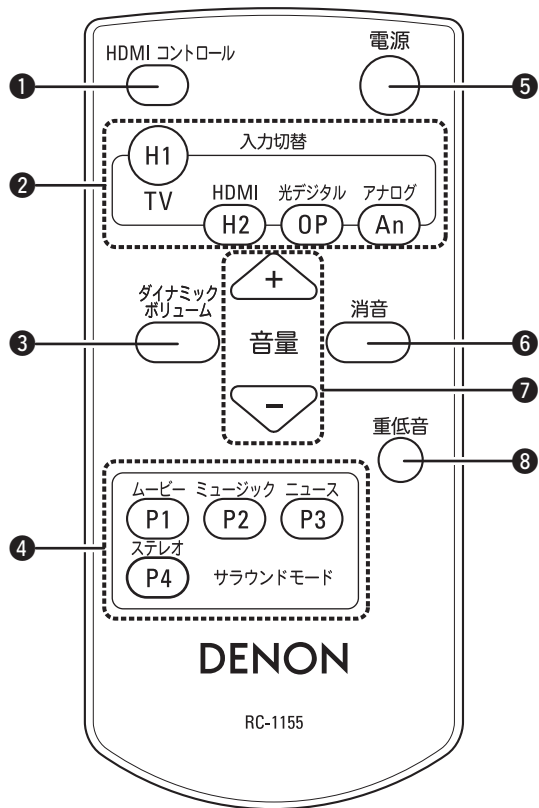


- ① 電源表示 ..... (16)
  - 緑色：電源オン時
  - 赤色：スタンバイ時(HDMI コントロール機能オン)
  - 消灯：スタンバイ時(HDMI コントロール機能オフ)
- ② 電源操作ボタン(ON/STANDBY) ..... (16)
- ③ 入力信号切り替えボタン(INPUT) ..... (18)
- ④ サラウンドモード切り替えボタン (SURROUND MODE) ..... (19)
- ⑤ 音量調節ボタン(VOLUME ▲/▼) ..... (18)
- ⑥ リモコン受光部 ..... (16)
- ⑦ ディスプレイ
- ⑧ AUDYSSEY DYNAMIC VOLUME表示 ..... (18)
  - Dynamic Volume<sup>®</sup> 機能の設定が「オン」のときに点灯します。
- ⑨ 入力信号表示
- ⑩ スピーカー部

### リアパネル

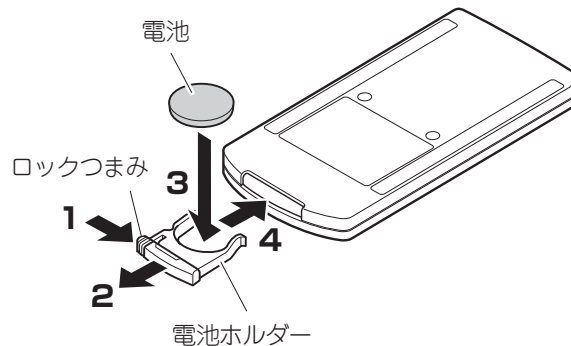


- ① HDMI入力端子 ..... (13)
- ② HDMI出力端子 ..... (11)
- ③ TV音声 デジタル入力端子 ..... (11, 13)
- ④ フロントスピーカー音声出力端子 ..... (10)
- ⑤ TV音声 アナログ入力端子 ..... (11, 13)
- ⑥ 電源コード ..... (11)
- ⑦ バスレフダクト部



- ① HDMIコントロールボタン ..... (20)
- ② 入力切り替えボタン ..... (17, 18)
- ③ ダイナミックボリュームボタン ..... (18)
- ④ サラウンドモードボタン ..... (19)
- ⑤ 電源ボタン ..... (16)
- ⑥ 消音ボタン ..... (18)
- ⑦ 音量+/- ボタン ..... (18)
- ⑧ 重低音ボタン ..... (18)

## 電池の交換方法



1. ロックつまみを矢印方向に押しながら、
2. 電池ホルダーを引き抜く。
3. 電池を入れる。
4. 電池ホルダーをロックされる位置まで戻す。

### ご注意





- リモコンにはリチウムコイン電池(CR2025)をお使いください。
- リモコンを本機の近くで操作しても本機が動作しないときは、新しい電池と交換してください。(付属の電池は動作確認用です。早めに新しい電池と交換してください。)
- 電池は、リモコンの電池収納部の表示通りに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
  - 電池を直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところに置かないでください。
- 万一、電池の液漏れがおこったときは、電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、電池を取り出してください。
- 不要になった電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例にしたがって処理をしてください。



## その他の情報

### 登録商標について

本製品は、次の技術を採用しています。(順不同)

	ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
	本機は DTS, Inc. からのライセンス契約に基づき製造されています。米国特許第 5,956,674 号、5,974,380 号、5,978,762 号、6,487,535 号、その他、米国内および国外特許もしくは特許出願物。DTS のロゴ、シンボルおよび DTS Digital Surround は、DTS, Inc. の商標です。
	HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LCC の商標または登録商標です。
	本機は、Audyssey Laboratories™ からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey Dynamic Volume® は、Audyssey Laboratories の商標です。

### 用語の解説

#### A

**Adobe RGB color / Adobe YCC601 color**  
“x.v.Color”と同様、これらのカラースペースは従来の RGB よりも広い色空間を定義します。

**Audyssey Dynamic Volume®**  
Audyssey Dynamic Volume® は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調整する技術です。

また、Dynamic Volume® は、Audyssey Dynamic EQ® の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより音量レベルの調節時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

#### D

#### Deep Color

従来の 8 ビットの色数を超える色調表現が可能な技術で、色縞のない、より自然に近い色を再現することができます。

#### Dolby Digital

Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。

再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル (FL、FR、C) とサラウンド 2 チャンネル (SL、SR)、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。

このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

#### Dolby Pro Logic II

Dolby Pro Logic II は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。

CD のような通常の音楽は 5 チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。

サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化(周波数特性 20Hz ~ 20kHz 以上)し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

#### DTS

Digital Theater System の略で、DTS 社が開発した、デジタル音声システムです。DTS 対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

#### DTS Digital Surround

DTS® Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1 チャンネルのデジタルディスクリットサラウンド音声フォーマットです。

#### H

#### HDCP

機器間でデジタル信号を送受信する際に、信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の一つです。

#### HDMI

High-Definition Multimedia Interface の略で、テレビやアンプなどと接続できる AV 用のデジタルインターフェースです。映像信号と音声信号を 1 本のケーブルで接続できます。

## L

## LFE

Low Frequency Effect の略で、低音部の効果音を強調するための出力チャンネルです。20Hz～120Hzの重低音を出力することで、サラウンド音声に迫力を加えることができます。

## M

## MPEG-2 AAC

MPEG-2 AAC (Advanced Audio Coding) は、MPEG (Moving Picture Experts Group) により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。

高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。MPEG-2 AAC により地上デジタル放送やBS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

## 【米国におけるパテントナンバー】

08/937,950	5,579,430	5,299,238
5848391	08/678,666	5,299,239
5,291,557	98/03037	5,299,240
5,451,954	97/02875	5,197,087
5 400 433	97/02874	5,490,170
5,222,189	98/03036	5,264,846
5,357,594	5,227,788	5,268,685
5 752 225	5,285,498	5,375,189
5,394,473	5,481,614	5,581,654
5,583,962	5,592,584	05-183,988
5,274,740	5,781,888	5,548,574
5,633,981	08/039,478	08/506,729
5 297 236	08/211,547	08/576,495
4,914,701	5,703,999	5,717,821
5,235,671	08/557,046	08/392,756
07/640,550	08/894,844	

## S

## sYCC601 color

“x.v.Color”と同様、このカラースペースは従来のRGBよりも広い色空間を定義します。

## X

## x.v.Color

色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。“x.v.Color”はソニーの登録商標です。

## さ行

## サンプリング周波数

サンプリングとは、音の波(アナログ信号)を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化(デジタル信号化)することです。

1秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。

## た行

## ダイナミックレンジ

機器が出すノイズに埋もれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

## ダウンミックス

サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。

## は行

## 保護回路

何らかの原因で過負荷や過電圧などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。

本機では、異常発生時にはディスプレイに“E4”を表示し、スタンバイ状態になります。

# 故障かな？と思ったら

## □ 各接続は正しいですか

### □ 取扱説明書に従って正しく操作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。

なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

## 【共通】

症状	原因/対策	関連ページ
電源が入らない。 または、入れてもすぐに切れる。	• コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。	11
	• 保護回路が働いています。このような場合、一度電源プラグをコンセントから抜き、5～10秒後に再びコンセントに差し込んでください。	25
本機が正常に動作しない。	• マイコンを初期化してください。	27
テレビのリモコンが効きづらい。	• フロントスピーカーがテレビのリモコン受光部を覆ってしまい、テレビのリモコンが効きづらくなってしまう場合は、付属のIRリフレクターを設置してください。	16

## 【映像】

症状	原因/対策	関連ページ
映像が映らない。	• 本機の映像出力端子とテレビの入力端子の接続を確認してください。 • 本機に接続したテレビの入力端子と入力設定を合わせてください。	11 17, 18

## 【音声】

症状	原因/対策	関連ページ
音が出ない。	• すべての機器の接続を確認してください。	8～13
	• スピーカーの接続を確認してください。	9, 10
	• 音声の接続をしている機器の電源が入っているか確認してください。	16
	• 音量を適切な大きさに調節してください。	18
	• ミューティングモードを解除してください。	18
	• 再生機器との接続を確認し、適切な入力ソースを選んでください。	17, 18
DTS 音声が出力されない。	• DVDプレーヤーの音声出力設定をビットストリームにしてください。詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。	—
	• DTS対応のプレーヤーをお使いください。	—
	• 本機の入力設定をデジタル入力にしてください。	17, 18

## 【HDMI】

症状	原因/対策	関連ページ
テレビの音が出ない。	• テレビが ARC 機能に対応しているか確認してください。テレビが ARC 機能に対応していない場合は、別売りの光伝送ケーブルまたはアナログオーディオケーブルで音声接続をおこなってください。また、テレビ側の音声入力設定もおこなってください。	11, 20
HDMI で接続したときに、音声が出力されない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。	11, 13
	• テレビが ARC 機能に対応していない場合は、HDMI ケーブルの接続だけではテレビの音は出ません。別売りの光伝送ケーブルまたはオーディオケーブルで音声接続をおこなってください。 • HDMI コントロール機能がオフに設定されていると、テレビが ARC 機能に対応していても音は出ません。オンに設定してください。	11, 20
HDMI で接続したときに、映像が映らない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。 • 接続した HDMI 端子に合わせて、入力ソースを設定してください。 • テレビが著作権保護 (HDCP) に対応しているか確認してください。HDCP に対応していない機器を接続した場合、映像が正しく出力されません。	11, 13 17, 18 12
HDMI コントロール対応機器に次の操作をすると、本機も同じ動作をする。 • 電源のオン / オフ • 音声を出力する機器の切り替え • 音量の調節 • 入力ソースの切り替え	• リモコンの <b>HDMI コントロール</b> ボタンで HDMI コントロール機能をオフにしてください。	20
HDMI コントロール機能が正しく動作しない。	• テレビやプレーヤーが HDMI コントロール機能に対応していることを確認してください。 • 本機の HDMI コントロール機能の設定をオンにしてください。 • 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定をオンにしてください。	— 20 —

## 【リモコン】

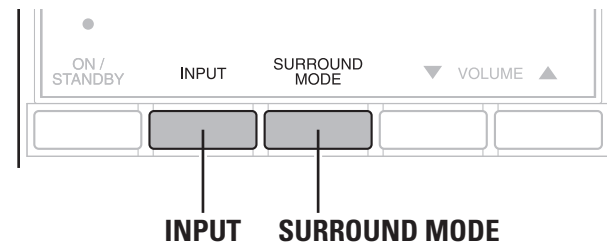
症状	原因/対策	関連ページ
リモコンを操作しても、正しく動作しない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>リモコンは、本機から約7m および30° 以内の範囲で操作してください。</li> <li>本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。</li> <li>本機のリモコン受光部に強い光(直射日光、インバーター式蛍光灯の光など)が当たっています。受光部に強い光が当たらない場所に設置してください。</li> <li>3D 映像機器をお使いの場合、その無線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。そのときは3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節してください。</li> <li>電池が消耗しています。新しい電池と交換してください。</li> <li>電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。</li> </ul>	16 16 16 23 23

## □ エラーメッセージについて

エラー表示	原因	処置
E3	本機が対応していない、96kHz のサンプリング周波数信号を入力した。	本機が対応する 32kHz、44.1kHz または 48kHz に再生機器の設定を変更するか、アナログ接続にしてください。
E4	本機の内部回路が正しく動作していない。	電源を切って、再度電源を入れてください。それでもエラーメッセージが表示される場合は、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

## お買い上げ時の設定に戻す(設定の初期化)

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。設定を初期化すると、各種ボタンの設定内容がすべてお買い上げ時の設定になります。



**1** 電源コードを抜く。

**2** 本体の **INPUT** と **SURROUND MODE** を同時に押しながら、電源コードをコンセントに差し込む。

**3** 本体の **ON/STANDBY** を 2 秒以上押す。  
ディスプレイに“do”を表示したあとに、本機のバージョンを点滅表示します。

**4** 電源コードを再度抜く。

**5** 電源コードを再度差し込む。

• お買い上げ時の設定に戻ります。



手順 3 で“do”を表示しない場合は、手順 1 からやり直してください。

# 保障と修理について

## □保証書について

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から1年間です。

## 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。

詳しくは保証書をご覧ください。

### ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

## 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。有料修理の料金については、「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

## □修理を依頼されるとき

### 修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

### 修理を依頼されるとき

- 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

## □依頼の際に

### 連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名 …… 取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号 … 保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

## □補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

## □お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者(保証責任者)およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。



# 主な仕様

## □ フロントスピーカー(SC-S412)

- 最大出力： 25W+25W+25W (1kHz 4 Ω JEITA 非同期駆動)
- 形式： 6スピーカー+センターツイーター バスレフ型
- 再生周波数域： 80Hz～45kHz
- スピーカーユニット： フルレンジ (5.1cm コーン形× 6)  
ツイーター (2.5cm バランスドーム型× 1)

## □ サブウーハー(DSW-S412)

- 電源： AC100V 50/60Hz
- 消費電力： 28W (電気用品安全法による)  
0.9W (CEC オフ スタンバイ時)  
2.0W (CEC オン スタンバイ時)
- 最大出力： 25W (100Hz 4 Ω JEITA 非同期駆動)
- S/N 比： 80dB
- 形式： 1 ウェイ・1 スピーカー バスレフ型
- 再生周波数域： 30Hz～300Hz
- スピーカーユニット： 16cm コーン型× 1

※ JEITA：(社) 電子情報技術産業協会 (略称：JEITA) が制定した規格です。

※ 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※ 本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※ 本機は国内仕様です。  
必ず AC100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。



## 索引

### ☞ 数字

3D ..... 12

### ☞ A

Adobe RGB color / Adobe YCC601 color  
..... 12、24

ARC ..... 11、20

Audyssey Dynamic Volume® ..... 18、24

### ☞ D

Deep Color ..... 12、24

### ☞ H

HDCP ..... 12、24

HDMI ..... 12、24

HDMI ケーブル ..... 11、12、13

HDMI コントロール ..... 20

HDMI 接続 ..... 12

### ☞ S

sYCC601 color ..... 12、25

### ☞ X

x.v.Color ..... 12、25

### ☞ あ

アナログオーディオケーブル ..... 11

### ☞ お

音量調節 ..... 18

音量変化 ..... 18

### ☞ け

ケーブル

HDMI ケーブル ..... 11、12、13

アナログオーディオケーブル ..... 11

スピーカーケーブル ..... 9

光伝送ケーブル ..... 11、13

### ☞ さ

再生 ..... 17

サラウンドモード ..... 19

### ☞ し

ジャンルオートサラウンド ..... 19

重低音 ..... 18

### ☞ す

スピーカーケーブル ..... 9、10

すべり止め ..... 8、10

### ☞ せ

接続

サブウーハー ..... 10

その他の機器 ..... 13

テレビ ..... 11

フロントスピーカー ..... 8、9、10

設定の初期化 ..... 27

### ☞ て

ディスプレイ表示 ..... 17、18、20

電源表示 ..... 16、22

電源を入れる ..... 16

### ☞ に

二重音声 ..... 18

入力ソース ..... 18

### ☞ ひ

光伝送ケーブル ..... 11、13

### ☞ ふ

付属品 ..... 5

フロントパネル ..... 22

### ☞ ほ

保護回路 ..... 25

### ☞ み

ミュートイング ..... 18

### ☞ り

リアパネル ..... 22

リモコン ..... 23

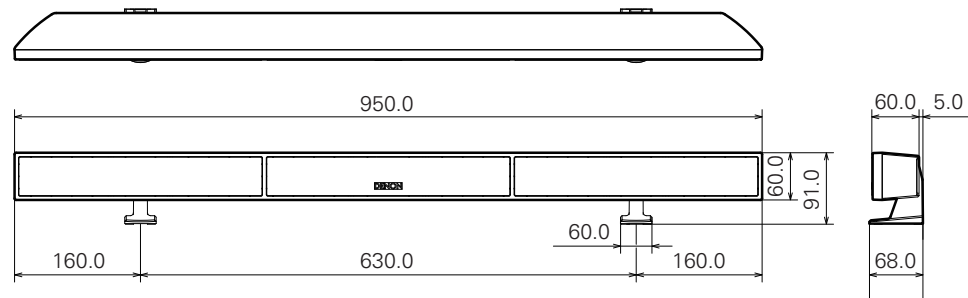
使いかた ..... 16

電池交換 ..... 23

# 寸法

## □ フロントスピーカー(SC-S412)

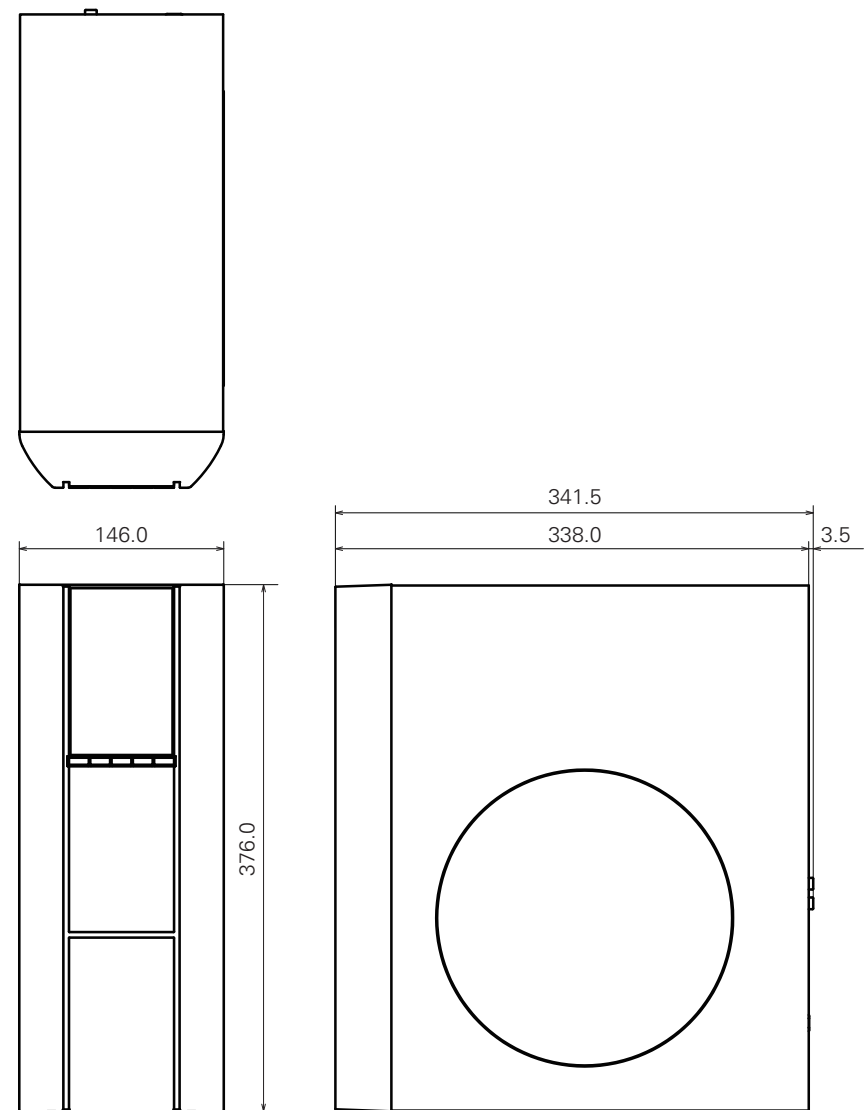
単位：mm



質量：1.7kg

## □ サブウーハー(DSW-S412)

単位：mm



質量：5.4kg

# DENON

デノンお客様相談センター

☎ 044-670-5555

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

受付時間 9:30～12:00、12:45～17:30  
(当社休日および祝日を除く、月～金曜日)

〒210-8569 神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1 D&Mビル

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の当社ホームページでもご確認いただけます。

<http://denon.jp/jp/support/pages/servicecenter.aspx>

株式会社 デイアンドエムホールディングス